

信州大学医学部附属病院 消化器・移植・小児外科に
通院中または過去に通院・入院された患者様またはご家族の方へ
当科における臨床研究にご協力をお願いいたします。

「本邦における生体肝移植ドナーの術後合併症、予後に関する第3回目全国調査」に関する臨床研究を実施しています。

信州大学医学部倫理委員会の承認を受け、医学部長の許可を得て実施しています。この研究は、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」の規定により、研究内容の情報を公開することが必要とされています。

研究課題名	本邦における生体肝移植ドナーの術後合併症、予後に関する第3回目全国調査
所属(診療科等)	消化器・移植・小児外科
研究責任者(職名)	副島雄二(教授)
研究実施期間	研究機関の長による許可日～2027年3月31日
研究の意義、目的	ドナーの合併症率、予後等を明らかにすることを目的とした研究で、肝移植ドナー手術術後合併症率等のベンチマークを示すことが可能で、移植医療の安全性向上に貢献すると考えられます。
対象となる方	1989年11月13日から2024年12月31日の期間に共同研究機関で生体肝グラフトを提供したドナーの方(グラフト提供時18歳以上)
利用する診療記録	年齢、性別、身体所見、手術成績、合併症を含む術後短期成績など
他機関から試料・情報の提供を受ける方法	電子的配信もしくは郵送により提供を受けます
研究方法	過去の診療記録より上記の内容を収集し、合併症率ならびに周術期成績のベンチマークについて検討します。
共同研究機関名 (研究責任者氏名)	日本赤十字社医療センター(責任者:橋本 拓哉) 東京大学医学部附属病院(責任者:長谷川 潔) 神戸大学(責任者:小松 昇平) 自治医科大学附属病院(責任者:佐久間 康成) 旭川医科大学(責任者:横尾 英樹) 島根大学(責任者:日高 匡章) 東京慈恵会医科大学(責任者:池上 徹) 慶應義塾大学(責任者:長谷川 康) 北海道大学(責任者:武富 紹信) 東北大学病院(責任者:戸子台 和哲) 大阪大学医学部附属病院(責任者:江口 英利) 国立成育医療研究センター(責任者:笠原 群生) 琉球大学大学院(責任者:高槻 光寿) 金沢医科大学(責任者:岡島 英明)

	東京医科大学八王子医療センター(責任者:河地 茂行) 東京科学大学病院(責任者:伴 大輔) 横浜市立大学附属病院(責任者:佐原 康太) 藤田医科大学(責任者:高原 武志) 社会医療法人蘇西厚生会 松波総合病院(責任者:松波 英寿) 群馬大学(責任者:調 憲) 名古屋大学医学部附属病院(責任者:小倉 靖弘) 徳島大学病院(責任者:森根 裕二) 九州大学(責任者:松浦 俊治) 愛媛大学(責任者:煤田 祐三) 京都大学(責任者:波多野 悦朗) 埼玉県立小児医療センター(責任者:水田 耕一) 獨協医科大学病院(責任者:青木 琢) 金沢大学附属病院(責任者:八木 真太郎) 千葉大学医学部附属病院(責任者:大塚 将之) 弘前大学大学院医学研究科(責任者:袴田 健一) 九州大学大学院(責任者:吉住 朋晴) 福島県立医科大学(責任者:丸橋 繁) 久留米大学(責任者:久下 亨) 三重大学(責任者:水野 修吾) さいたま赤十字病院(責任者:新村 兼康) 広島大学(責任者:大段 秀樹) 長崎大学(責任者:江口 晋) 新潟大学大学院医歯学総合研究科(責任者:若井 俊文) 日本医科大学付属病院(責任者:川野 陽一) 順天堂大学医学部附属順天堂医院(責任者:齋浦 明夫) 大阪公立大学大学院医学研究科(責任者:新川 寛二) 筑波大学附属病院(責任者:高橋 一広) 神奈川県立こども医療センター(責任者:新開 真人) 熊本大学大学院(責任者:日比 泰造) 関西医科大学(責任者:海堀 昌樹) 山口大学医学部附属病院(責任者:高橋 秀典) 岩手医科大学(責任者:新田 浩幸) 岡山大学病院(責任者:高木 弘誠)
研究代表者	主任施設の名称:信州大学 研究責任者:副島雄二
問い合わせ先	氏名(所属・職名):清水 明(信州大学医学部外科学教室消化器・移植・小児外科学分野・准教授) 電話: 0263-37-2654

診療記録を研究、調査、集計しますので、新たな診察や検査、検体の採取の必要はありません。

患者様を直接特定できる個人情報を削除した上で提供された試料・情報等を利用します。

研究成果は今後の医学の発展に役立つように学会や学術雑誌などで発表しますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。

この研究にご自分の診療記録等を利用することをご了解いただけない場合、またご不明な点については、上記問い合わせ先までご連絡くださいますようお願いいたします。

研究不参加を申し出られた場合でも、なんら不利益を受けることはありません。ただし、参加取り消しの申し出をいただいたとき、すでに研究成果が論文などで公表されていた場合や、試料や情報が匿名化されて個人が全く特定できない場合などには、結果を廃棄できないこともあり、引き続き使わせていただくことがあります。